塩溶液（１→1,000）２mLを全量ピペットを用いて量って加え、振り混ぜた後、10分間放置する。塩化ナトリウム４ｇ（3.5～4.4ｇ）を加えた後、ｎ－ブタノール10mLを全量ピペットを用いて量って加える。２分間激しく振り混ぜた後、遠心分離し、上澄液をとる。⑴及び⑵の溶液につき、⑶の溶液を対照液として、波長555nm付近の極大波長における吸光度A_T及びA_Sを測定する。

エトパベート（$C_{12}H_{15}NO_4$）の量（mg）

$$= \text{エトパベート標準品の量（mg）} \times \frac{A_T}{A_S} \times 2.5$$

－対応する被ジアゾ化性物質の量（mg）×1.215－対応するフェノール性物質の量（mg）×1.134

⑴　保存の方法の基準

ａ　アンプロリウム

密閉容器に保存すること。

ｂ　エトパベート

密閉容器に保存すること。

イ　製剤

⑺　成分規格

本品は、アンプロリウム製造用原体及びエトパベート製造用原体に、賦形物質を混和した小片又は粉末である。

含量　本品は、定量するとき、表示量の90～110％に相当するアンプロリウム（$C_{14}H_{19}ClN_4$・HCl）及びエトパベート（$C_{12}H_{15}NO_4$）を含む。

確認試験

①　アンプロリウムの定量法により得た試料溶液は、赤紫色を呈し、その吸収スペクトルを測定するとき、波長528～532nmに吸収の極大を示す。

②　エトパベートの定量法により得た試料溶液は、赤紫色を呈し、その吸収スペクトルを測定するとき、波長553～557nmに吸収の極大を示す。

定量法　アンプロリウム　アンプロリウム（$C_{14}H_{19}ClN_4$・HCl）約0.05ｇを含む量の本品を有効数字３桁まで量り、その数値を記録し、メタノール（２→３）100mLを全量ピペットを用いて加え、20分間振り混ぜる。この溶液をろ過し、初めのろ液20mLを除き、次のろ液５mLを全量ピペットを用いて量り、100mLの全量フラスコに入れ、メタノール（２→３）を標線まで加えて100mLとし、以下アンプロリウム製造用原体の定量法を準用する。

アンプロリウム（$C_{14}H_{19}ClN_4$・HCl）の量（mg）

$$= \text{アンプロリウム標準品の量（mg）} \times \frac{A_T}{A_S}$$

エトパベート　エトパベート（$C_{12}H_{15}NO_4$）約３mgを含む量の本品を有効数字３桁まで量り、その数値を記録し、100mLの全量フラスコに入れ、メタノール75mLを加え、20分間振り混ぜ、更にメタノールを標線まで加えて100mLとし、遠心分離する。上澄液10mLを全量ピペットを用いて量ってビーカーに入れ、水酸化ナトリウム試液10mLを加え、以下エトパベート製造用原体の定量法を準用する。

エトパベート（$C_{12}H_{15}NO_4$）の量（mg）

$$= \text{エトパベート標準品の量（mg）} \times \frac{A_T}{A_S} \times \frac{1}{10}$$

⑴　保存の方法の基準

密閉容器に保存すること。